

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 神奈川県立有馬高等学校 (正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫 ^{注1}
中学校 中高一貫 ^{注2} 高等学校
教員養成大学 専修学校、各種学校
特別支援学校
その他 (例 : 小中高一貫)

注1 義務教育学校を含む 注2 中等教育学校を含む

所在地 〒243 - 0424

神奈川県海老名市社家 240

E-mail yamamoto-x2t@pen-kanagawa.ed.jp

Website www.arima-h.pen-kanagawa.ed.jp

幼児児童生徒数

男子 354 名 女子 587 名 合計 941 名 (平成 30 年 2 月 1 日現在)

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校の学校目標の一つに「特色ある外国語教育と国際理解教育を実践し、国際的視野を持った人材を育成する」とある。この目標を達成するために、今年度は以下の活動を実施した。これらの活動をとおして国際的視野を持った人材育成に努めた。

事業名

活動内容

ユネスコ委員会発足

今年度から全学年のクラスからユネスコ委員を選出し、委員会を組織した。

ドンウォン高校歓迎式典 (ユネスコスクール・姉妹校)

ユネスコ委員会を中心に歓迎式典の運営を担った。学校全体での歓迎式典を実施し、ダンス部や少林寺拳法部によるパフォーマンスを行った。さらに各クラスに入って授業体験を行った。

1 学年服のチカラプロジェクト講演会	1 学年の生徒全体に対して近隣のユニクロの店舗から社員が来校し、子供服回収の目的などを説明した。
米国姉妹校訪問・交流	1、2 学年合計 15 名の生徒が 11 日間米国ケンタッキー州の姉妹校を訪問し、日本の文化紹介を行った。
寺子屋運動ポスターコンテスト参加	1 年生の「社会と情報」の時間に日本ユネスコ協会連盟の寺子屋運動のためのポスター作りを実施した。
文化祭 在県外国人生徒による展示	各自の国の文化紹介・食品などを販売した。
台湾修学旅行 学校訪問・交流	現地の学校を訪問し、お互いの文化の紹介を行った。
東海大学 ESD セミナー	外国学校の生徒たちと異文化交流を行った。
服のチカラプロジェクト 小学校訪問	服のチカラプロジェクトの講演会で学んだことを小学生向けに自分たちでアレンジし、近隣の小学校に説明をした。
ESD 子供プロジェクトへのポスター参加	小学生対象のイベントで Rice プロジェクトの成果を展示・発表を行った。
ユネスコスクール全国大会	二つの分科会に参加し、他校の活動状況の理解を深めた。
東海大留学生との交流プログラム	6 名の東海大学の留学生が本校の英語コース 2 年生の授業を訪れ自国の文化などをワールドカフェ方式で紹介した。
フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの講師が来校し、1 学年全員に対して児童労働についての説明を行い、アクティビティをとおして児童労働の現状について学んだ。
ブリティッシュインターナショナル学校との交流プログラム（予定）	近隣のブリティッシュインターナショナルの生徒が本校を訪問し ESS 部と交流を行う。

(2) 活動の詳細
活動内容

チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

1. 環境	2. エネルギー	3. 防災	4. 生物多様性
5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
13. エコパーク	14. ジオパーク	15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
16. ジェンダー平等	17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

1. 批判的に考える力	2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 夏季休業期間)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

寺子屋運動ポスター制作用 DVD

ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の学校目標の一つに「特色ある外国語教育と国際理解教育を実践し、国際的視野を持った人材を育成する」とある。その目標を達成するために、授業内外の時間、総合的な学習の時間、ロングホームルームの時間を利用し活動を行っている。授業外の活動になると一部の生徒しか活動に参加することができないため、可能な限り授業内、総合的な学習の時間やロングホームルームの時間を活用し、学校全体としての取組を行うようにしている。また、一人の教員だけで活動の内容を決めるのではなく、多くの教員が意見を出しやすい環境を作っている。

学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

チェック事項 1-4 に対応

学校全体で活動に取り組むために、校務分掌の広報特色グループの中にユネスコ関係の業務を担当する部署を設けている。その部署を中心に様々な活動を計画、運営、実施している。人事異動のため担当教員の入れ替わりが多いため、実際に一緒に業務を行い、次年度以降も活用できるように引継ぎ資料を作成している。

今後は多くの教員に活動を知ってもらうために、校内でも活動報告を積極的に行いたい。

ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動後に、教員、生徒にアンケートを配付している。それにより、活動の良かった点や改善点を知ることができ、次年度に活かすことができている。

多くの生徒がユネスコスクールとしての活動後、国際交流や異文化に興味を持つため、どれくらいの頻度で活動を実施するかが今後の課題である。

ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) チェック事項 2-2 に対応

教員の研修やセミナーを通じて本校の活動内容を発信している。近隣のユネスコスクールと活動内容を共有することにより、様々な取組を知ることができ、それらを本校の活動にも活かすことができる。また、学校説明会やホームページを通じても活動内容を発信している。多くの中学生がユネスコ活動に興味を持ち、それを理由に本校を志願する生徒も多くいる。

学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

チェック事項 2-3 に対応

- ・本校では毎年株式会社ユニクロと協同で服のチカラプロジェクトに参加しており、近隣の小学校を訪問し、服を集める活動を行った。
- ・NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンによる出前授業を実施している。昨年度までは英語コースのみの実施だったが今年度は1学年全員を対象に出前授業を行った。
- ・神奈川県ユネスコスクール連絡協議会、厚木ユネスコ協会などと協同プログラムを実施している。

国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
チェック事項 2-4 に対応

東海大学が実施しているユースセミナーに毎年参加し、参加している国内外の学校と交流を行っている。このセミナーをきっかけに東海大学の留学生を本校に招き、交流プログラムを実施した。

また、ACCU が実施した Rice Project をきっかけにインドネシアのアマリナ高校と毎年食べ物に関する情報交換を Skype を通じて行っている。今年度はお互いの国の調味料について発表を行った。

県内、県外の学校などに出向いてユネスコスクール実践報告を行った。

ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
チェック事項 2-5 に対応

昨年度までは、ユネスコスクールとしての多くの活動を英語コースが実施していた。そのため、学校全体としての取組を行うのは難しかった。しかし、今年度から英語コースがなくなり、学校全体で国際理解教育を推進することが学校のミッションとなり、学校全体としてどのようにユネスコスクールの活動を全生徒に行うか教員同士考える機会が増えた。実際にユネスコ委員会の発足、服のチカラプロジェクトやフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの活動を学年全体で実施することができた。多くの教員、生徒がユネスコスクールとしての活動に興味を持ち始めた。

海外派遣事業に積極的に応募する生徒の数が増え、生徒の中で国際理解教育に関心が高まったと考えられる。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

平成 30 年度も引き続き多くのユネスコスクールとしての活動に取り組むために近隣の学校や学校以外の団体と協力を行っていききたい。

本校は今年度、ユネスコ委員会を発足させた。多くの活動（ドンウォン高校の歓迎会、服のチカラプロジェクト 小学校訪問、東海大学 ESD セミナー）をユネスコ委員会中心に行った。来年度はこれらの活動をユネスコ委員会のみで行うのではなく、より多くの生徒が関われるように工夫したい。

また、今年度は初めてフリー・ザ・チルドレン・ジャパンによる講演会を 1 学年全体で実施することができた。来年度以降も一部の生徒のみならずホールスクールアプローチとして全体で実施できるようにしたい。

ESD,SDGs についての理解を教員、生徒に向けてより深めていきたい。そのために、こうした指導のできる教員を増やしていきたい。